

インターンシップに来ました！

令和5年9月11日(月)から22(金)まで県北建設事務所にインターンシップ実習生として受け入れをしていただきました。地元である福島県が社会基盤設備をどのように維持管理されているのか興味があり、参加しました。

土湯トンネル防災訓練

令和5年9月13日(水)に土湯トンネル防災訓練が行われました。土湯トンネルを管理している吾妻土湯道路管理所の管理区間は19kmを担当しており、そのうちトンネル区間は4箇所4.8kmとなっており、全体の約25%となっています。トンネル内での交通事故、車両火災等災害が発生した場合、二次災害発生防止を図るため迅速かつ的確な避難誘導、情報連絡、防災施設の捜査及び通行規制等を実施しなければなりません。平成30年には、土湯トンネル内でトラックと乗用車の衝突による死亡事故も発生していることから、通行車両等の安全を念頭に置き、関係諸機関協力のもとに防災訓練を実施することによって事故、火災等に対する有事即応体制の確立することを目的として行われました。警察や消防など様々な機関が参加した防災訓練となり、緊張感のある訓練となりました。



開会式



救助活動

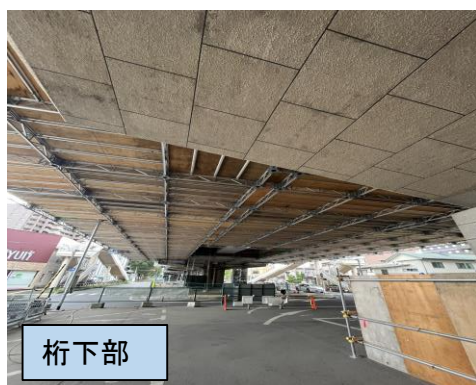


事故処理

今回の訓練では、一般国道115号土湯トンネル内の福島側坑口より100m付近においてバンと軽乗用車が衝突、運転者等2名(ダミー2体)が負傷し社内に閉じ込められ、また軽乗用車から車両火災が発生したことを想定しています。

あづま陸橋の橋梁補修について

現在あづま陸橋の補修工事を行っています。あづま陸橋は、全長450m、幅員22mであり、上下線片側2車線で供用されており、1973年4月20日に開通しています。現在は全国約70万橋の橋梁のうち、7割以上となる約50万橋が市町村道にあり、建設後50年を経過した橋梁(2m以上)の割合は、10年後には43%と増加傾向にあります。そのため老朽化した橋梁の修繕が急がれています。そしてあづま陸橋も建設後約50年が経過しており、補修工事が進められています。



桁下部



防護服着用

塗替塗装工という工事が行われています。鋼橋の腐食を防止し、延命化を図るために旧塗膜や腐食箇所の錆を除去して、塗替を行っています。実際に作業をされている場所に入らせてもらいましたが、とても暑く、いるだけで倒れそうになる現場でした。そんな中作業をされている業者の方には感謝です！

現場監督員(公務員)が現場に行き、業者の方と正しい工事がなされているかしっかり確認しています。このような小さな業務の積み重ねによって私たちの生活を支える社会基盤が整備されているのだと感じました。



塗装膜厚確認

(裏面あります！)

無電柱化については平成28年12月に無電柱化に関する法律が定められたことにより、福島県では平成31年から福島県無電柱化推進計画が策定されました。その一つとして本宮駅前で電線共同溝工事が行われました。

施工前と完成状況を見比べると、全く違う風景となっており、無電柱化の効果を実感できました。



本宮停車場中條線

無電柱化のメリットとは？

1. 都市景観の向上

これまで地上にあった電線類が地中化によって見えなくなるため、美しい街並みが形成される。

2. 快適な通行空間の確保

歩道が広く使え、ベビーカーや車いすの方も安全に利用しやすくなる。

3. 都市災害の防止

台風や地震などの災害時に、電柱が倒れたり、電線が垂れ下がったりする危険がなくなる。また倒れた電柱に道をふさがれることが無くなり、災害時の緊急車両の進行もスムーズになる。

4. 情報通信ネットワークの信頼性の向上

無電柱化としての電線類の地中化は、地震などの災害時に情報通信回線の被害を軽減し、ネットワークの安全性・信頼性を向上させる。

河川砂防課の現場見学

6日目には河川砂防課の現場を見学させていただきました。はじめに蛭川筋河川改修事業の田尻橋の現場に行きました。この改良事業では、度重なる浸水被害の防止や、近年の気候変動の影響による激甚化・頻発化する異常気象への対応を目的として行われています。

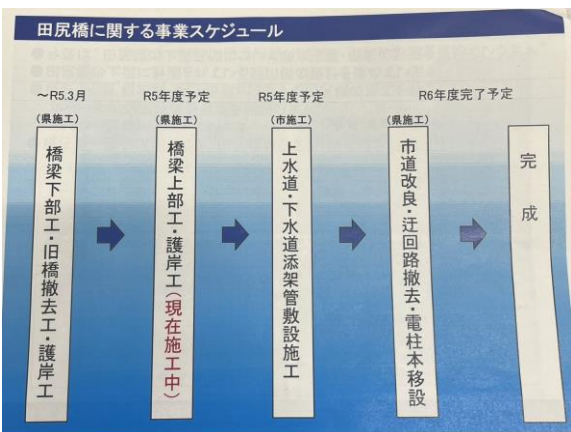


田尻橋の現場

火山砂防事業である東八川砂防えん堤工の現場に行きました。降雨で直下に存在する人家・耕地等に被害の恐れがあるために工事が行われています。とても大規模な土木構造物で迫力がすごかったです。魚道が設けられており、多自然型川づくりという面にも配慮がなされた構造物になっていると感じました。



東八川砂防えん堤工の現場



現在は、仮橋を架設して工事を進めています。現場に伺った前日に上部工桁を架設したそうです。

